北スラウェシ日本人会
NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

Tarsius

タルシウス

第35号

元山記念霊園の慰霊碑（2017年8月 学習院大学の学生らによる清掃活動）　撮影：中村

平成３０年８月発行

目　　次

01.　第 10 回オール・ジャパン協力会議報告　中村　高太郎　P. 02

- 会議報告は日本人会会員向けであるため製本版に限定させていただきます -

02.　日本語パートナーズより寄稿

1.　すべての出会いを大切に　窪田　しおり　P. 10

2.　海外での外国語中等教育の現場をみて　大内　梨央　P. 11

3.　マナドへ来た経緯とこれから　田村　琳子　P. 13

4.　北スラウェシ州“日本語パートナーズ”　岡　優斗　P. 15

03.　第 26 回スラウェシ地区日本語弁論大会報告　中村　高太郎　P. 17

04.　安いマグロをさがしに　大貫　周明　P. 29

05.　KITAP Tidak Terbatas まとめ　下村　まゆみ　P. 32

06.　天皇誕生日レセプション報告　中村　高太郎　P. 35

07.　ミナハサ事情（2）　編　集　部　P. 38

08.　編集後記　P. 50

09.　北スラウェシ日本人会会員名簿　P. 51

日本インドネシア
国交樹立 60 周年

第１０回　オール・ジャパン協力会議　報告

中村　高太郎

2018 年 5 月 25 日に在インドネシア日本国大使館（ジャカルタ）にてオール・ジャパン協力会議（以下会議）が行われました。

・・・

本会議報告は北スラウェシ日本人会会員向けであるため、
オンライン版では、非公開とさせて頂きます。
何卒、ご了解お願い致します。
なお、北スラウェシ日本人会会員の皆様におかれましては、製本版をご覧ください。

＜Ｐ０２～Ｐ０９　につきましては、オンライン版での提供はございません＞

すべての出会いを大切に

窪田 しおり

「北スラウェシ州マナド市」

派遣先通知に書かれていた文字を初めて見たとき、その場所がどこにあるか、そしてどんなところなのか、私は全くわかりませんでした。今、そんなマナドが大好きで、帰りたくないとすら思っているのが不思議でなりません。

日々、仕事やプライベートの付き合い等に追われる生活の中で、たまたまインターネットで見かけた「日本語パートナーズ事業」の記事に惹かれました。正直、もうあまり若くないし、日本での仕事や、安定した生活をリセットしてまで飛び出して良いものかと迷いは大変ありました。しかし、それを超える何かを得られる予感が強くして、応募を決意しました。

そして始まったマナドでの生活。日本にいた頃とは全く時間の流れが違いました。そして、学校では授業の変更やキャンセルが当たり前。準備や計画は全く無意味。何を、誰を、信じて良いのかとにかく戸惑いました。しかし、無邪気で元気な生徒たちに囲まれ、職員室では先生たちと笑いあい、いつの間にかそんな状況にも自然に溶け込めるようになりました。焦らない、イライラしない、とりあえず待つということにも慣れました。逆に今は、日本にいた頃は何であんなにいつも急いでイライラしていたのだろうかと不思議にすら思います。

7か月間という短期間でしたが、本当に1日1日が濃厚で貴重な毎日でした。そう思えるのも、日々の出会いの積み重ねのおかげです。学校やコス、町中やお店の人たちまで、マナドで出会ったすべての方たちは何かの縁があって出会えたことと感じています。人と人とのつながりを大切に、私とマナド、そしてインドネシアとのつながりがこれからの続くよう、次の出会いにつなげていきたく思っています。

日本人の少ないこの地で、日本人会の皆様と出会えたことも大きなことです。なかなか、色々な情報が入りにくい中、助けていただき感謝しております。ティヌトゥアン、イカンバカール、ニケゴレン・・・美味しいマナドのご飯が恋しくなった頃、またお会いしたいと期待しています。

海外での外国語中等教育の現場をみて

日本語パートナーズ
インドネシア７期　　大内 梨央

北スラウェシ日本人会のみなさま、お久しぶりです！
昨年７月末～3月まで国際交流基金　日本語パートナーズ事業にてマナドに滞在しておりました大内です。マナド滞在中は、日本人会のみなさまに大変お世話になりました。助けていただいたことも多く、みなさまのおかげで有意義なマナド生活を送ることができました。本当にありがとうございました！！パートナーズの活動を振り返るとともに、マナドでの日本語教育について、感じたことも書いてみたいと思います。

私たち日本語パートナーズの活動の主な目的は、「日本のファンを増やす」ことです。
各地域の高校に派遣され、現地日本語教師と一緒に授業を行ったり、文化紹介を行います。ただ、私たちの活動は日本文化紹介だけを行うものではありません。インドネシアでは高校の必修科目の中に、外国語科目があり、その中の選択肢として「日本語」があります。Ujian Nationalでも受験科目として日本語を選択することができます。そのため、普段の授業でも、会話練習や発話モデルを行い、生徒たちだけではなく、現地日本語教師の日本語能力向上のフォローアップをしていました。

パートナーズの活動の中で感じた、日本での外国語教育と海外での外国語教育の違いは、「将来を見越した内容を教えているかどうか」といった点です。日本での中等教育機関（中学校や高校）での外国語教育（主に英語）では、１つのテーマに対して、単語や文法、長文読解等の複数の項目に分けて授業を進めていたように思います（私の記憶上）。文法の項目では、文の構成や文の作り方をしっかり学び、自分で応用できるようになるまで、練習を繰り返します。このような授業を進めていっているために、日本人が文法に強いのだと思います（文法を気にするあまり、話せないというのもまた問題だと思いますが…）。

しかし、ここマナドでの外国語教育（ここでは日本語のみ取り上げます）は、基本的にパターンプラクティスで授業が進められていました。「なにでがっこうへいきますか？」や「しょうらいのゆめはかしゅです。」など、想定される会話や状況の一部分を抜粋し、発音や会話練習を中心に授業が進みます。文法の構成についての説明は特にありません。ひたすら声に出して覚えるという感じです。ここで、私たちパートナーズの出番です。発音モデルをし、その後全体での発音練習、会話モデル、生徒同士の会話練習のチェックなどを行います。パターンプ

ラクティス中心のクラスでは、日本人の発音を直接聞かせることはとても有効な手段だと思います。実際、時間の関係で普段は入れないクラスに入ったとき、生徒の発音を聞いてびっくりしました！（インドネシア訛り？や拗音の発音間違い等がたくさんありました）

日本とインドネシアでの外国語教育の方針は大きく異なっていることが分かりました。私たちの活動は、インドネシアの外国語教育の現場には生の発音を聞かせるという意味では有効的なのだと思います。しかし、長期的な目線でみると、元来自立学習の習慣がない教育方針のため、どこまで私たちの効果が有効的かは正直分からない部分が多いと思います。私たちと触れ合うことで、生徒自身が日本語に対する興味を持ち、自分で勉強していかなければいけないので、最後は生徒自身の能力に頼るしかないからです。なので、今の私たち日本語パートナーズにできることは、どれぐらい生徒の興味を引けるか、といった部分にかかってくると思います。となると、結局のところ、自分たちの活動の原点「日本のファンを増やす」に戻るのではないかと思います。

思ったことをつらつらと書いてしまったので、締めくくりが難しくなってしまいましたが…残り少ない時間、初心に帰り、最後まで「日本のファンを増やす」活動に一生懸命取り組んでいきたいと思います。

最後に、北スラウェシ日本人会のみなさま、本当にありがとうございました。みなさまとお話しすることは、とてもリフレッシュでき、楽しかったです。またマナドへ来た際は一緒にお酒を飲みましょう！！

マナドへ来た経緯とこれから

田村 琳子

私は２０１７年８月から２０１８年３月まで、日本語パートナーズとしてマナドへ滞在しました。日本語パートナーズは、インドネシア人の日本語の先生と一緒に、SMA の日本語の授業にネイティブスピーカーとして入ります。

私がこの事業を知ったのは、大学のエレベーターの前です。
エレベーターの前にポスターがありました。
その時私は大学２年生で、２年生が終わったら休学して何かしようと決めていました。というのも、田舎からでてきて文字どおり「何もかも違う」都会に来て一年半くらい、自分の世界はなんと小さかったのかと思い知らされ、もっともっと色々なこと（できれば勉強以外のこと）をしてみたいと思っていました。

ポスターをみて
タイ・ミャンマー・インドネシア派遣へ応募し、書類選考、面接があり、
２０１６年１２月にインドネシア派遣日本語パートナーズの合格通知をいただきました。

上記のとおり、インドネシアに来ることを自ら選んだ訳ではありません。
合格をいただけた国へ行けたらいいと思っていました。
マナドへ来ることも、住むところも、派遣高校も全て、運命におまかせです。

２０１７年３月に１ヶ月間大阪で泊まり込みの研修があり
インドネシア語、日本語教育、ジャムカレット等々等々を学びました。

そして７月にジャカルタで１週間研修を終え、マナドへ来ました。

空港を出て、マナドの最初の印象は
「暑い」「空が青い」。
そして夕方、みんなでカワサンへ行くと真っ赤な夕日がありました。

ありがちな表現ですが、昨日のことのようです。
それから時間はどんどんどんどん過ぎて、もう帰国２週間前です。

私は SMA N 1 Manado へ派遣されました。
生徒たちは、元気。しっかりしているけれどとにかく元気。
いつも目がキラキラしています。
（比喩ではなく本当にキラキラしています笑）

苦手な発音がつまった「職員室」を顔をくしゃくしゃにして言う生徒
授業に歌とダンスを取り入れるとノリノリの生徒
私のインスタグラムのアカウント名を恥ずかしそうに聞いてくる生徒
授業中トイレへ行ってくると言って、アイスをくわえて戻って来る生徒
名前をカタカナで書けて嬉しいのか、その紙をおでこにずっと貼っている生徒

今日は外の音楽がうるさいから授業はしないでゲームをしようという先生

新しい服を来ていくと「cantik」の嵐をあびせてくれる職員室

…

傑作だらけです。

私は将来日本語教育へ関わりたいと思っているわけではありません。
日本へ帰ってから、この経験が何になるのか、まだ分かりません。
でもきっと
ティヌトゥアンとダブダブが恋しくなるし
セルフィーが大好きで、いつも陽気な方たちのことを家族や友達に話します。
（今相席しているイブも一生懸命セルフィーを撮っています）
そしてマナドっていい所だったなと思うのだと思います。

最後に
突然やってきた私（たち）を暖かく迎えてくれた日本人会の皆様ありがとうございました。パワフルで経験豊富な方たちと出会えて、私の小さい世界がまた広がった気がします。これからも、どうぞ、緩く、よろしくお願いします。

北スラウェシ州“日本語パートナーズ”

岡 優斗

私がマナドに派遣されている“日本語パートナーズ”とは、ASEAN 諸国の主とした中等教育機関にて、現地の日本語教師、学習者の「パートナー」として、授業のアシスタントや日本文化紹介活動等を行うことで、ASEAN 諸国の日本語教育を支援するという活動です。また、“日本語パートナーズ”自身も現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN 諸国と日本の架け橋となることが目標です。“日本語パートナーズ”はこの目的ともう一つ目的があります。それは、日本のファンを増やすということです。

日本語教師の資格も、インドネシア語を流暢に話せるスキルもない私は、私の強みである積極的な行動力で、日本語を学ぶ生徒や日本語を学んでいない生徒、そして地域の人に日本のファンになってもらえるようにマナドで活動を行ってきました。結果からいうと、日本語に接したことのない生徒や先生、地域の人にも積極的にコミュニケーションをとることで、日本のファンとまではいかなくとも、日本人、また日本という国について少し興味を持ってもらうことができたのではないかと思っております。

北スラウェシのインドネシアの人たちは、外国人に特に関心が強く、この関心は日本人にもほかの国の外国人にもあるように感じました。この関心もあり、学校でもワルンのような小さなお店でも私を歓迎してくれて、インドネシアの人と話す機会を多く得ることができました。私がインドネシアの人と話をするとき、よくトピックに上がったことが 2 つあります。1 つは日本の誇るサブカルチャー、アニメです。マナドでは街中を歩いているときもよくアニメのイラストを目にしたり、コスプレと言われるイベントがあったりと非常に好まれております。2 つ目は K-POP と呼ばれる韓国の音楽です。マナドの人からすると、日本人の顔は韓国人や中国人のように見えることが多く、私自身もよく韓国人かと間違われました。このようなトピックから、どのように日本のファンになってもらうかというところまでつなげるか、と試行錯誤しながら活動を重ねるにつれて、それぞれ相手に適した方法があることを再確認することができました。特に、日本人と初めて接するようなマナドの人には自分の行動が日本人の代表になる、と意識し活動を行いました。大学を休学し、まだ就職の経験もないような私が、このような経験ができたことは私の人生で有意義なものだと確信しております。

最後になりましたが、私たち日本語パートナーズがマナドで活動するうえで支えてくださった日本人会の皆様には本当に感謝しております。何かあった際にも相談させていただき、マナドのことについてもそれ以外のことについても多くのことを勉強させていただきました。ありがとうございました。

第 26 回スラウェシ地区 日本語弁論大会 報告

中村　高太郎

6 月 6 日、トンダノにあるマナド国立大学にて、第 26 回スラウェシ地区日本語弁論大会が開催され、長崎さん、箭内さん、私-中村が審査員として参加いたしましたので、ご報告いたします。箭内さんは直接日本人会のイベント等には参加されておりませんが、現地人の旦那様が日本語学校などの運営に携わっている専業主婦？の方です。今回、お会いする縁がありましたので日本人会のメーリングリストの方には参加いただいております。

出場者は、5 月のマカッサルで行われた南スラウェシ地区大会で優勝した Fisha Asfira さんと準優勝の Desi Ratnasari さん、北スラウェシ地区からは、Abraham Risya 君と Fujio M.Bawole 君の計 4 名が出場しました。

審査の詳細は後述いたしますが、4 名の日本語力はともに高く、特に上位 3 名は接戦しており、テーマ、発音や質疑応答ともに甲乙つけがたい弁論で審査員を困らせるものでしたが、その中でも、Fujio M Bawole 君の弁論内容が日本文化との接点や関心の高さが評価され優勝（第 1 位）を勝ち取り、準優勝（第 2 位）は、しっかりした質疑応答が出来た Desi Ratnasari さん、そして、第 3 位に豊かな表現力の Fisha Asfira さんが入賞しました。

優勝した Fujio 君は今後全国大会に出場することになりますが、本当に 2 位 3 位も優劣つけがたく、一部では、Fujio 君よりも勝っている部分もある為、決して油断せずに全国大会では負けないように、そして、優勝を勝ち取るべく日々の努力を頑張ってください。

また、今回惜しくも優勝されなかった方も、能力は申し分ないため、自信を持っていただくとともに、是非今後も日本語や日本文化に関心を持って、現地在住邦人と交流をして友好に一役買っていただいたり、日系企業等でご活躍されることを期待しつつ、いつの日か日本で会えることを楽しみに待ちたいと思います。

〇弁論大会の様子

優勝（第一位）

Fujio M.Bawole 君（右）

Prof.DR. Julyeta P.A Runtuwene 学長（左）

準優勝（第二位）

Desi Ratnasari さん（右）

中村（左）

第三位

Fisha Asfira さん（右）

Abraham Risya 君は、
今回入賞できなかったが、
今後の活躍が期待される

日本インドネシア国交樹立 60 周年
をモチーフとしたケーキ

会場・審査の様子

左から長崎さん、中村、箭内さん

合間に催された
UNIMA 日本語学科学生による、
浴衣での盆踊り実演

○各弁論者の原稿

Abraham Risya　君 (1/2)

“信頼 “

こんにちは、私はアベと申します。どうぞよろしくお願いします。

皆さん、信じている人がいますか。そして、皆さんを信じてくれている人もいますか。私達はかならず誰かを信じて、信じられています。たとえば家族や先生や恋人や友達などを信じています。誰かを信じることは難しいと思いますから、誰かが私を信じてくれたら、嬉しいです。それで、信頼は貴重なものたと思います。

この世界では、すべてのことが私達が期するとおりに起こるわけではありません。誰かを裏切って、誰かが裏切られている時があります。もし私達が信じている人は裏切った時は、その人はもう信じらないと決心したかもしれません。しかし、その人をすぐ離れるんじゃなくて、できるだけ、その人の言い訳を聞いてあげたほうがいいと思います。その人の言い訳は理解できたら、その人を許してあげたほうがいいです。私達は人間であるからこそ、間違いや悪いことをします。私達と同じように、ほかの人も完璧ではないとわからなければなりません。ですから、私達も心を開いていくことが必要です。

高校生だった時、両親の信頼を裏切てしまいました。私は悪い子で、両親を悩ませてしまいました。それに勉強もあまりできませんでした。何度も両親が学校に呼び出されました。それでも、両親がまだ私を信じてくれました。しかし、私はまた悪いことを繰り返してしまいました。ある時、自宅から追放されました。その時、一人暮らしの難しさを感じました。とても辛かったです、そして、悪い行為をしたことを悔い改めたら、また両親が許してくれました。その時から、自分が変わる事を約束しました。

それからアニメを知って、日本語に興味を持つようになりました。インターネットで日本語を勉強始めました。高校を卒業してから、大学で日本語プログラムに入ろうと思うようになりました。しかし、入学試験に不合格して、来年まで待たなければなりませんでした。それでも、私は諦めませんでした。その一年間試験のために勉強しました。翌年にマナド国立大学の日本語プログラムに入る事ができました。やっと大学で日本語を勉強するチャンスがあって、嬉しくて嬉しくてかばりませんでした。大学は自宅から遠いですから、一人暮らしを過ごさなければなりません。両親から離れても、私はいつも頑張っています。両親もいつも私を応援してくれます。その後、生まれて初めてクラスで一番いい成績を取る事ができました。すぐ両親に連絡して、とても嬉しく思ってくれました。外の人にとって、それは普通の事かもしませんが、私にとっては違います。なぜなら学校で勉強した時に、一度も一番いい成績を取れませんでした。両親を少しずつでも幸せにさせたいと思います。これからも、もっと両親を幸せにさせたいんですから、一生懸命日本語を勉強します。

日本人は簡単に諦めない国民生を持っていることで有名です。その簡単に諦めない国民生の根拠は何か、実に私も知りたいです。しかし、ここで話したいのは、私が憧れる日本人のことです。その人は尾田栄一路という人で、ワンピースを書いた漫画家です。私は日本語が好きになった大きい理由はワンピースです。ワンピースからインスピレーションを受けて、今までずっと日本語の勉強をつづけてきたのもワンピースのおかげです。尾田栄一路はワンピースを１９９７年から今まで２１年間書きつづずけてきました。世界中ワンピースが好きな人は多いようです。２１年間も漫画を書きつづけてきたことは素晴らしいと思います。それだけではありません。あるニュースによると、尾田栄一路は入院している時にも、まだ漫画を書いていました。どうして尾田栄一路はそんなに頑張っているのだろうかと知りたいですよね。その理由の一つは愛している人に信頼してもらったおかげだと思います。特にワンピ

ースのファンです。その信頼でワンピースを書きつづける力になります。ですから、今でも尾田栄一路はきっと頑張って漫画を書きつづずけていると思います。

私も簡単に諦めない日本人のようになりたいです。そのために、私はいつも人の信頼に応じられるように頑張っています。この人生で、何度も失敗しても、私達を信じてくれる人がきっといると私は信じています。ですから、失敗しても、諦めないで前へ進まなければなりません。簡単に諦めない日本人のように、私達もそうしなければなりません。最後に、信頼は非常に貴重なものですから、人の信頼を無駄にしないで、大切にしてください。

粗末なスピーチでしたが、これで終わりました。皆さん、ありがとうございました。

Fujio M.Bawole　君 (1/2)

「私と日本語」

皆さん、こんにちは。

私は「私と日本語」についてお話したいと思います。

中学生の時に初めて日本語と出会いました。そのとき、全然日本のことを知らない友達から日本語の本をもらいました。彼女のおかげで、日本語を知ることができました。彼女は全く日本のことを知らないのにです。中学校では日本語の授業がありませんでした。しかも、私はとっても小さい島にすんでいました。島には電気もインターネットもなかったし、町からも遠く離れていました。しかし、私は日本語が大好きだから、色々な方法で頑張って勉強しました。

つまり、私は独学で日本語を勉強してきました。本を読むことが好きだから、家で日本語を勉強しながら、日本語の教科書を読みました。日本語が好きすぎて、休みの日でも、日本語を勉強することに多くの時間を費やしました。例えば、日本語の教科書を読んだり、ひらがなとカタカナを書いたり、漢字を書いたりしてしました。そのとき、訂正してくれる人がいなかったので、私の日本語は正しいかどうか分かりませんでした。特に発音の部分でした。それでも、日本語を勉強し続けました。

高校に入ったとき、私は日本語の授業のある高校を選択しました。高校ではいつも応援して下さって、素晴らしい先生に出会いました。先生のおかげで、もっと日本語を頑張って勉強するようになりました。本当によかったです。基礎日本語はすでに勉強したから、教室で日本語の先生にちょっと違うことを教えてもらいました。例えば、みんなが挨拶の勉強をしている時は、私は日本語能力試験の５級を勉強しました。とても楽しい時間でした。

今、私は大学生です。以前からずっと日本語が好きだから、日本語学科を専攻しました。ここではもっと日本語の能力を上達させたいと思います。だから、いっしょけんめい勉強しないといけないです。

私は日本語だけではなく、日本の文化も好きです。特に日本伝統芸です。例えば、書道や日本舞踊や日本の歌などです。書道が一番好きです。でも、最近は百人一首にお興味があります。なぜでしょうか。それは、少ない言葉の中に、色々な読み方が出来るからです。代表的なものでは「ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは」という在原業平が詠んだ歌があります。それに、かるたを取るのは非常に早く、とてもかっこいいと思います。私はちはやふる、という映画を見て、百人一首を初めて知りました。かるたをしたことがありませんが、とても興味があるので勉強し、いつかは日本でチャレンジしたいです。

Fujio M.Bawole　君 (2/2)

日本語は難しいと言われています。しかし、私は少しずつ勉強して、出来るようになりました。もちろん他の外国語も難しいと思います。しかし、たとえ難しくても、いっしょけんめい勉強すれば、出来ないことはないと思います。

皆さんは失敗をしてしまった経験がありますか？私の失敗した経験は、高校だったときです。私は日本語弁論大会に参加したことがありますが、失敗してしまいました。そのときは本当に日本へ行けることを期待していましたが、残念な結果に終わってしまいました。しかし、私は簡単にあきらめません。勝つか負けるか、それは一番に大切なことではないと思います。一番大切なことは「努力」です。まだ他のチャンスがたくさんあるからです。今やらなければいけないこと、それは、ずっと頑張り続けることです。人生は七転び八起きです！

私は将来日本へ行きたいです。日本から色々なことを勉強したいです。失敗しても、私は簡単にあきらめません。時間があるかぎり、ずっと頑張ります。

ご来場の皆さんは色々なところからいらして、それぞれの夢を持ってらっしゃいます。失敗しても、簡単にあきらめないでください！失敗は成功の元ですから。やってみないとわかりません。いっしょけんめい勉強して、何回も練習して、挑戦して下さい！私も皆さんに負けないように頑張ります！

以上で私の発表を終わります。つたない日本語でしたが、最後まで聴いていただき、本当にありがとうございました。

Fisha Asfira　さん (1/2)

私とトイレ

皆さんこんにちは。フィルシャアスフィラと申します。今回は私とトイレについてお話させていただきます。

私は小さい頃から、トイレにこだわっていました。実家のトイレ以外、特に公衆トイレを使うことがいやでした。高校生のときまで、学校のトイレはほとんど使わなかったのです。「きみはトイレについてうるさいな」とよく友達に言われていました。他の人にとって、トイレは大したものではないようですが、私はそう思っていません。

小学校のときのトイレは、多くの生徒がいる割に、一つしかありませんでした。汚れもあちこちあるし、ドアをロックすることもできないので、おなかが痛くても、我慢していました。もう我慢できないときには、必ず友だちを一人連れて行って、ドアが開かないように外からドアのハンドルを閉めてもらっていました。でも、外に友だちがいても、落ち着けず、すぐに済ませて出ました。

それから、中学校のトイレは、よく詰まるものでした。ある日、おなかが急に痛くなり、仕方なくトイレに行くことにしました。入ってみると、トイレは詰まっている状態で、さらにトイレットペーパーなどが床に散らばっていて、悪臭もしました。本当にがっかりしました。その日は、学校の近くに住んでいる友達の家まで、わざわざ学校をさぼって排便に行きました。

小学校から中学校までトイレについていやな経験ばかりあったせいか、高校に入っても、その気持ちがそのまま残っていました。毎日学校ではできるだけあまり飲んだり食べたりしないようにしました。高校のトイレの水もきれいではなく、悪臭もするし、水の入ったバケツさえないのに、毎日他の生徒たちが普通にトイレを使っているのを見て、不思議に思っていました。「あんなところで小便や排便を済ませるなんて信じられない」「汚い水では病気になってしまうのではないか？」という疑問でいっぱいでした。当時私のクラスはトイレのすぐ隣にあって、強い風が吹くと、本当に大変でした。その悪臭がドアや窓から入ってしまって、みんな授業に集中できなかったのです。

私の田舎には小さい頃からよく聞かされたおまじないがあります。おなかが痛いときに、白い小石を 3 個探して、それを握ったら、すぐに直るというおまじないです。当時の私は、それをそのまま信じていて、学校でおなかが痛くなったら、白い小石を 3 個握って我慢していました。そうすると、トイレに行きたい気持ちが少しずつなくなりました。不思議だと思いながら、高校まで私のポケットには、いつも白い小石が 3 個ありました。もし、洗濯のときに母がそれを捨てたら、すぐに新しい石を探してポケットに入れておきました。

高校生のときに、小さな村で校外見学があり、地元の人の家に 5 日間泊まることになりました。その家に入ったら、トイレがないことに気がつきました。台所の隅に小さなスペースがあり、そこには水の入ったバケツが置いてあるだけでした。「おばさん、トイ

レはありませんか。」と聞くと、「それはないね。小便はここで済ませていいよ。排便だったら、川の近くに行くと、小さなトイレがある。ただ、そこには水がないから、用を済ませてから、ここに戻って、この水で洗う」。それを聞いた私は、驚いて、ポケットの小石をぎゅっと握りました。

なんとか無事にその 5 日間は終えましたが、実家に帰ったら、便秘で病気になってしまったのです。「もうやめなさい！それは健康に悪いともう分かっただろう。いつも石鹸やウェットティッシュを持って出かけなさい。」と親に叱られました。その後から、少しずつ学校のトイレを使うようになりました。

日本人もトイレにこだわっていると聞いたことがあります。トイレがきれいなら、その家全体もきれいだといいます。私は日本のウォシュレットをテレビで見たことがあります。あれは素晴らしいです！座って、様々なボタンを押すだけで、下から水を出したり、風が吹いて乾燥させたりしてくれます。いつか、日本のトイレに入ってそんなウォシュレットを使いたいと思っています。

トイレは私たちの日常生活の中でも大事なものです。たとえ公衆トイレでも、使い終わったら、きれいにしなければなりません。そう思う人が増えたら、きっと学校のトイレをはじめ、どの公衆トイレもきれいになります。以上です。

Desi Ratnasari　さん (1/2)

気づいた太陽の他の役割

みなさんおはようございます。

私はデシラトナサリと申します。

今回は気づいた太陽の他の役割についてお話ししたいと思います。

みなさん太陽にどのような印象を持っていますか？

太陽は神様から与えられた恵みの一つであって、私たちの生活の中でとても関わりが深いものです。

インターネットで調べたところ、日本人は天照という太陽の神をも信じています。日本人にとって太陽は必要なものなのですね。日本は日の出の国と呼ばれています。なぜでしょう？その理由はもし日本を中国から見たら、日本は太陽が昇る方向にあるからです。

太陽は人生の中での役割がたくさんあります。例えばエネルギーを生み出したり、 農家をたすけたりします。日本では　“太陽光発電”という技術が開発されていました。実は前、私は太陽が好きではありませんでした。太陽がでている日には文句を言います.「暑い、とても暑い、なんで雨が降っていないの？」

逆に洗濯物を乾かすとき、１日中雨が降っていて出かけられないときには太陽が出て欲しいと思います。

みなさんも私と同じ気持ちになったこと一度はあると思います.

ある日高校の友達と一緒に川のほとりに座って、太陽が西の地平線に沈んでゆくのを見ていました。私は日の光が綺麗に水面に跳ね返る様子を見て楽しんでいました。しかし日が沈み始めて日の光はゆっくりとオレンジ色の影となり、光は消えて暗くなりました。すると空が美しい夜空へと変わりました。日が沈むのを見て、様々な感情を抱き、夕日が夜空に変わってゆくことがとても寂しく感じました。そのとき私はなぜそのような感情を抱いたか分かりませんでした。しかし大学生になり、日本文学科に入って、日本人の友達もできました。知り合った日本人の友達のおかげでついに答えに辿り着きました。

ある日私は日本人の友達に「夕日を見てどう感じますか？」と尋ねました。彼女らはこういいました。「毎日が忙しいとき、夕日を見ると辛いことがまるで夕日と一緒に沈んで消えてゆくんだよね。時々涙が出てしまうことがあるよ」「え、泣くの？どうして？」と尋ねると、彼女らはこういいました。「夕日を見ると昔の思い出や出来事がこみあげてきて、寂しい気持ちになってしまうんだよね」。その答えを聞いて、私は何も言えませんでした。しかし私の日本人の友達の答えのおかげで私の太陽の役割への考えが変わりました。

Desi Ratnasari　さん (2/2)

太陽は言葉で説明できない気持ちを感じる手助けをしてくれるものです。みなさんはどうでしょうか？誰か太陽の他の役割を考えたことがある人はいませんか？ぜひ見つけてみてください。そしてそこから私たちは何か必要なことの側面だけではなくて、他の側面から解釈をしてみてください。

みなさん色々な物事を色々な側面から見てみませんか？もしかしたら今まで私たちの考えではないものを見つけることができるかも知れませんよ。みなさんぜひ見つけてみてください。以上です。ごせいちょうありがとうございました。

〇各弁論者に対しての審査員の評価

評価及び審査結果に関しての詳細は以下のようになります。各審査員の審査内容を統合したものを掲載いたします。なお、弁論者は、弁論順に掲載しています。

・Abraham Risya　君　UNIMA（評価 70.0 点）

人を信頼することとされることが重要であることに関するテーマであった。

表現力はよかったが、内容のブレが目立ち、アニメの話題に飛ぶなど、構成がイマイチな点が目立った。質疑内容では、ありきたりの回答であった。

このため、全体的な評価はほかの 3 名よりも低くなった。

・Fujio M.Bawole　君　UNIMA（評価 76.3 点 第 1 位 優勝）

日本語に対する経験（きっかけから勉強、失敗、興味のある文化）がテーマであった。

上記が簡潔にまとめられており、また日本文化との接点を感じることができた。

質疑応答も、こちらが、「高校時代の日本語弁論大会で失敗した」とあるが、具体的な失敗とは何か？どうするべきか？という事を質問したが、「発音で失敗した」ことを説明し、そして「なぜ発音が悪かったのか」という理由だけでなく、「どうやってそれ（発音）を直そうとしているのか」という事を的確に答えることができたのは印象的であった。

しかし、他の 3 名に対して、自信感であるとか表現力の点が弱く見受けられるため、全国大会に向けては、もう少し実力アップしてほしい。

・Fisha Asfira　さん　UNHAS（評価 74.0 点 第 3 位）

トイレに関するテーマであった。

全体的に関係つにまとまっているものの、トイレに関するテーマで体験談と日本のトイレ事情が素晴らしいといったことで、やや「ありきたり」のテーマであったが、表情や表現力は豊かで聞き取りやすく素晴らしかった。

しかし質疑応答では、「では、具体的にどうすれば、インドネシアのトイレがよくなると考えますか？」という問いに対して、「掃除をしっかり行う～洗剤を使い洗う」といった（間違いではないが趣旨から外れる）回答と緊張による動揺が見られ、減点となった。（模範解答として、日本のトイレの実情も含めた文化を多くの人に紹介（見せて）訴えかけたい、とか、啓蒙啓発・家庭での教育の重要性、などを主張するのが最適と思われ、この減点がなければ、2 位は確実で、私個人的な意見としては、優勝もあったかもしれないと考えている。）

・Desi Ratnasari　さん　UNHAS（評価 74.6 点 第 2 位 準優勝）

太陽についての人々の思いに関したテーマであった。

全体的なテーマの構成・まとまり、日本語能力や、質疑応答での自信を持ったしっかりとした発言などは、申し分ない内容であった。太陽に関しての日本人の友達との交流にも触れられており、太陽に対する両国の感性や思いなどが伝わってきた。

しかし、テーマの内容としては、主張したいことがなんであるかという事が分かりにくかった点と、友達の太陽に対する思いを紹介するにとどまり、日本との文化的な接点がやや弱い、といった印象があり、その部分が、マイナスとなった。

＜後日記入＞

その後、7 月 14 日にジャカルタにて全国大会が開催され、フジオ君も参加したものの、フジオ君からありました報告によると、フジオ君としては、頑張ったようですが、1 位は中部ジャワ、2 位西ジャワ、3 位東ジャワ、4 位スラバヤとなり、残念ながらスラウェシ地区は入賞ならずでした。（※5 位以下の順位の発表は無し）

来年は、スラウェシ地区（北スラウェシ、南スラウェシ）の日本語を勉強する学生さんは、是非、入賞できるように頑張ってください。

安いマグロをさがしに

大貫 周明

皆さんこんにちは。

最近、なかなかよい仕事がなく、久しくビトン・マナドには行っておりません。

かつては、インドネシアのマグロはよく売れていましたが、年々と価格が高くなり、日本のお客さんからはとにかく安くないと、と言われる今日この頃。

で、安いマグロを探しに、どこへ行っているかというと、アフリカです。今回は安いマグロを探しに行った 2 つの国について報告します。

１）ガーナ

私の中では、ガーナ＝チョコレートの国です。カカオ→白人→奴隷→貧しい→泥棒と勝手に連想しておりました。私の予想に反し首都アクラは大都会でした。

この国には飢えに苦しんでいる人たちはおりません。とのこと。

以外に物価も高く、ホテルや飲食代は日本と変わらないかそれ以上。

空港から 1 時間程車で走り港町の Tema に到着。ここはガーナで一番大きい貿易港で、日本からの中古車もたくさん並んでおります。マグロでは大手の缶詰の工場が集まっている有名な地区でもあります。中国人も多く、町中の看板は中国語だらけ。

Tema の町

象牙海岸

早速、商談中の韓国系の現地の漁業会社（鹿児島の中古巻網漁船６隻所有）へ行き、冷凍キハダマグロの価格交渉。大体 3 ドル/kg 程度です。ビトンで 4 ドル/kg 程度ですので、まぁまぁ安い方です。良品だけ選んで良いとの事なので、その会社の漁船に乗り込んで、良い品質のキハダマグロだけを日本向けに特別に処理して冷凍する計画となりました。まだカツオが中心の時期なので、キハダの漁獲シーズンになったらおいでよということで一時帰国しましたが、残念ながらこの計画は頓挫することに。

一時帰国し乗船の準備中にこの会社の船が海賊に襲われ、韓国人船員達が誘拐されたからです。現在もまだ解放されておりません。無事であることを祈ります。

２）サントメ アンド プリンシペ共和国

最近までこんな国があるなんて知らなかった。赤道直下の人口わずか 20 万人の国。

ここへ行くにはポルトガルから、小型機が週２便しか飛行機が就航していません。

小さい島なのですが、大陸棚が広く、エビやロブスター、タコなどの資源豊富。

また、マグロの好漁場の中に立地しているので、絶対にマグロ資源は多いハズ。

事前のやりとりではマグロの価格もめっちゃ安いし、たくさん獲れるよとの事。

この国に水産会社は１社だけだが、マグロを輸出した事はない。まさに未開拓。

これはイケると期待していざ入国。たしかに手付かずの漁場はあった。

早速、国で唯一の立派な水産加工場を観に行くも、かれこれ 10 年くらい稼動していないとの事。。。修理するお金がないので、そのままにしてあったらしい。

漁業省兼貿易省兼税関の２階建のボロい建物にいる大臣を訪問し状況聞き取り。

この国は大臣クラスならアポなしで会えるというユルさ。

マグロはたーくさんいる。でも獲っていない。だれも買い手がいないからね。

だからマグロ漁師がいない。漁船もない。加工場も運営する人がいない。という。

魚で返すから、まずは日本から漁船を持って来て～、という話から始まった。

この国はアフリカ最貧国で財政は破綻寸前。なので諸外国は資金援助を避けたがっていると聞く。滞在日数に余裕があったので、英語をしゃべれる優秀な若者を探すべく大学を訪問。こんなところにも JICA のポスターが貼ってあった。さすがである。

ここには資源も産業もない、観光客も来ない。水産物以外は何もない。であれば、もっと力を入れるべきだよ、という話をするが、どうもこの国の若者は覇気がない。

だって公務員以外は仕事ないし、お金なくても食べ物には困らないし、という感じ。

おそらく、この先もこの国は発展しないのだろう。それに、この国唯一の大学の構内にカジノが併設してあるのはいかがなものだろうか。。。なんで？

漁業省

JICA のポスターが掲示中

大学のウラはカジノ

小さい地引網で小魚をとる漁民　たいして獲れない

タコを売る男　1 尾　30 円位

これからも安いマグロを探しにアフリカ各地をまわる事でしょう。。。。

以上

KITAP Tidak Terbatas まとめ

下村　まゆみ

KITAP Tidak Terbatas（永久滞在許可）申請の時を迎え、5 年の冬眠（というか、閑散期）から目覚めた『北スラ KITAP 友の会』。私たちは今回も見事な連携プレーで完全勝利を納めました。その報告も兼ねて、2018 年 5 月時点における KITAP Tidak Terbatas の手続きを以下にまとめます。

■ 手続きに関係する役所（おさらい）

・ Departmen Kehakiman Direktorat Jenderal Imigrasi, 以下 JKT(本店相当)
・ Kantor Wilayah Kementerian Hukum Dan Ham Sulawesi Utara,以下 Kanwil(支店相当)
・ Kantor Imigrasi Kelas I Manado,以下イミグレ(営業所相当)

■ KITAP Tidak Terbatas ikut suami/istri 必要書類（コピー部数は従来どおり）

1. KTP WNI
2. KK WNI
3. Surat permohonan
4. Surat permintaan dan jaminan (印紙 Rp.6000)
5. Surat penyataan integrasi (印紙 Rp.6000)
6. Surat keterangan domisili（新たに取得のこと）
7. Akte nikah（日イ両方）
8. Paspor WNA
9. KITAP WNA
10. KTP WNA
11. KK WNA
12. Pas foto 縦 4x 横 3 赤背景 2 枚
13. Fomulir perdim 24（イミグレでもらう、無料）

// 巷では KITAP seumur hidup とも呼ばれるが、正式には KITAP tidak terbatas。自作書類で KITAP seumur hidup を使うと作り直しを命じられるので注意。

// 住所やパスポート番号が変わっているときは、その変更手続き後（要 Surat permohonan）に KITAP 申請。住所変更しても新住所へのサーベイはない。

// 2018 年 3 月から KTP WNA が必要書類に加わったが、その発行を渋る Capil もあるそう。マナドのイミグレが例として友の会メンバーT さんの KTP コピーを保管しているので、発行拒否されたらイミグレに相談のこと。

// イミグレから Kanwil へ回す書類が出るまで順調にいけば 1 週間。宗教行事が間に入ると伸びる。書類は出来ているのにイミグレが連絡して来ないのも想定内。「待たされ過ぎじゃない？」と感じた時は電話するか突撃する。

// イミグレから Kanwil へ回す書類、Kanwil から JKT へ回す書類は、上手い具合に開封し、タイプされた個人情報にミスがないことを確認のうえ、一部コピーしておくと良い。

// 顔写真・指紋・署名の 3 点セットは、JKT 許可後ではなく、イミグレから Kanwil へ回す書類が出たタイミングで行う流れに変わった。それをイミグレが忘れてすっ飛ばすと JKT で余計な時間がかかるので注意。

// 申請書類一式と引換えにイミグレが出す「申請受領書」に、「申請受領日」と「申請番号」が記されている。KITAP とそれに伴う 2 年の Re-entry の費用は、Kanwil 許可が下りると支払可となり、支払期限である「申請受領日」の 30 日後までに「申請受領書」を持参のうえ銀行窓口で支払う。「申請番号」をもってイミグレ公式サイトから進捗確認可。

// WNI 単独でイミグレや Kanwil へ行くとミンタされるケースがまだある。WNI はミンタを拒絶せずに値切る方向で進めるのが一般的ゆえ、WNA が必ず同行するか、いっそのこと WNA 単独で行き、ミンタがあれば WNA が拒絶すべし（ただし、イミグレが申請受理するまでは WNA 単独はダメ）。袖の下には、単なる餌食のヤツと、うまく使って便宜を図ってもらうヤツがある。前者にならぬよう注意！

// 順調に進めば申請から 1 ヶ月後には KITAP tidak terbatas がもらえる。鉄則ながら、KITAP 受領時は必ずその場でカードやパスポートに記載/押印された事柄に相違ないことを確認する。

// ITAP tidak terbatas は永久ながら、KITAP tidak terbatas は有期。5 年に一度のイミグレ報告（届け出）の際には、KITAP elektronik 作成費用と、顔写真・指紋・署名の手数料がかか

る模様。

手続きに関しては以上。

そして、皆さんご存知ですか？北スラウェシ州における KITAP Tidak Terbatas 第一号（北スラウェシ州史上初の KITAP Tidak Terbatas）を受けた WNA は、北スラ KITAP 友の会メンバーなんです！これは、友の会にとっても、北スラ日本人会にとっても、誠に誇らしいことです。

余談ながら、マナドではブイブイ言わせてるイミグレさんも、実際はお役所ピラミッドの最下層にいるわけです。彼らと JKT の関係は、まさに『踊る大捜査線』の所轄と警視庁の関係で（例えが古いかしら？笑）、JKT に振り回され、ポカをすれば一方的に責められちゃう。そんな彼らの悲哀を色濃く感じたのが今回の手続きの特徴とも言えました。

最後に、おまけとして KK WNA と KTP WNA を新規で作成する際の必要書類を記します。こちらは Catatan Sipil での手続きです。KTP 有効期限は KITAP のそれに準じますので、KTP も 5 年に一度更新していく必要があります。

■ KK WNA、KTP WNA 必要書類（1 は原本提出、2-6 はコピー1 部）

1. Surat tanda lapor diri
2. Surat keterangan domisili
3. Akte nikah
4. Akte kelahiran
5. KITAP
6. Paspor
7. Pas foto 縦 3x 横 2 1 枚（背景色は生まれた年代で異なる）
8. Fomulir（Capil でもらう、無料）

// WNA の職業欄は「Public work」固定。
// KK に名前を載せても、Capil で一般的に用いられているデータ参照モードでは WNA の情報は出てこない（消えているように見える）。どこかの設定を変更することで出てくる模様。

これにて北スラ KITAP 友の会は再び冬眠に入ります。次なる繁忙期はイミグレ報告（届け出）の初回がやってくる 5 年後です。それでは皆様、またお目にかかる日まで、ごきげんよう。

天皇誕生日祝賀レセプション

中村　高太郎

昨年の 12 月 15 日（金）にマカッサルで天皇誕生日祝賀レセプションが行われました。日本人会の会員の方々には、招待状が届いていたと思います。南スラウェシ州の日本人会の方には従来から毎年招待していたとのことで、今回は北スラウェシ日本人会のメンバも初招待することとなったそうです。

今年度の開催については、まだ、何も連絡はございませんが、今年も手元に、招待状が届いた場合は、せっかくの機会ですし、誰でもが経験できることでもありませんから、時間的・経済的な余裕のある方は、是非、参加されてみてはいかがでしょうか？（しかしながら、マカッサルは距離も遠く、飛行機での移動と宿泊も必要なうえ、旅費宿泊費等の支給や補助もありませんから、無理は言えないものの、、、ですが）

天皇誕生日祝賀レセプションは、天皇陛下の誕生日に先立って、世界各国の日本大使館や領事館（ホテルや大使や総領事の公邸などで）で開催されており、各国の公館によって若干の違いはあるようですが、現地の政府関係者や日本人会会員などを招いての祝賀式典です。

※昨年の招待状送付先住所の調査においては、皆様のご協力ありがとうございました。

それでは、レセプションの様子をレポートしたいと思います。

レセプションの出席者はおおよそ 200 名ぐらいでした。ほとんどが、南スラウェシ州からで、南スラウェシ州日本人会のメンバが多く、現地の政府・大学関係者も招待されていました。賓客としては南スラウェシ州副知事がいらしていました。

宮川所長の挨拶に続き、副知事の挨拶そして立食パーティという流れでした。

途中に南スラウェシ州日本人会のラグラグ会という唄の同好会による熱唱や巫女による舞のパフォーマンスがありました。

食事については、船盛の寿司（2 隻ありました笑）、てんぷら・うどん、タコ焼きなどがあり、寿司については、消費分を、その場で握って船に補充していました。味はよかったと記憶しております。一番の人気は、タコ焼きだったようで、まじめに挨拶などを聞いている間に、すぐになくなってしまい、私の口に入る事はありませんでした。（泣）その他にも当然ながら、インドネシアの料理もありました。

一方でイスラム色の強いマカッサルへの配慮などから、お酒は、期待していませんでしたが、見事に裏切られてしまい、ワインなどの他、日本からは、ビールの他、日本酒も各種銘柄が揃っていました。宮川所長によると「お酒は日本から直送したのだ」と言うことです。そして、「来年は、『のんべぇ』の方も是非いらしてください」とのことでした。

私の方は、(ご存知の方もいると思いますが、、、) 病み上がりだったため食事も控えめにして、また、お酒は残念ながら体調的に飲めず、指をくわえてみているだけでしたが、それでも久しぶりの日本の食べ物に大変満足したものでした。

会場では、領事事務所スタッフの木内さんともお話しすることができ、木内さんには、日本人会会員の中でも領事出張サービスの継続を望んでいる方もいるので是非ご検討いただきたいと言った旨、お願いしておきました。木内さんの方からも実現できるように頑張りますといった回答でした。(今年度の領事出張サービスも木内さんが対応される予定とのことです。)

その甲斐があってかは、わかりませんが（おそらく関係ないと思いますが、、、笑)、本年度は、領事出張サービスが行われるという事でよかったと思います。あるものに対していらないというのは、いつでもできる事で簡単ですが、一旦、必要性が無いという事で、廃止されてしまっては、それを復活させるのは大変です。皆様も、領事出張サービスなどは極力参加する事で、最近の情勢や他地域の状況を聞いてみたり、また、証明書等の交付サービスもありますから利用するなどで、必要性をアピールする絶好の機会になるかと思います。

会場の様子

ラグラグ会の熱唱

宮川所長の挨拶

巫女による舞

食事コーナー

船盛の寿司

飲み物コーナー（コーヒー、ジュースの他にビール・ワイン・日本酒といった酒類も）

マカッサル領事事務所の管轄は、管轄エリアは広く、在スラバヤ日本総領事館傘下の領事事務所という位置付けですが、他の領事館はもとより大使館並みのカバーエリアであると言えます。それでいて小さな事務所と限られた人員で各種業務（邦人サービスからビザの関連、そして企業サポートや宣伝・広報活動から日イの友好親善まで）を幅広く行っているわけですから、ある意味では所長以下スタッフの方々の業務遂行能力はすごい（イ国内の他の公館に比べて）と思われます。一方で、だからと言って、邦人サービスがおろそかになっては困りますので、この部分につきましては、より一層のご尽力いただきたいと思っております。

最後に、天皇誕生日祝賀レセプションに招待していただき、大変ありがとうございました。

※レセプションに際してましては、（ものすごくフォーマルというわけではないものの）一応ドレスコードが設定されています。招待状を確認する必要があります。

ミナハサ事情（２）

南洋庁長官官房

第１０章　在留邦人および邦人拓殖事業の現況

A.　　在留邦人

ミナハサに存在する邦人団体は次のとおりである。

１　社団法人メナド日本人会

２　セレベス産業協会

３　メナド商業会議所

（1）　メナド日本人会

蘭領印度法にもとづく邦人組織。現在、南洋貿易株式会社メナド支店長の稲垣辰夫氏を会長とし、会員数は１９１名である。左に昭和１３年８月調べによるメナド在留邦人名簿を掲げる。

稲垣　辰夫	南洋貿易	柳井　　稔	二葉商会	牛田　藤三	大岩造船
細谷　定次	同	上園　勝治	同	倉元　国義	同
中野　　正	同	菅原吉三郎	同	水井　義雄	同
紫田鉄四郎	セレベス興業	小島　正義	同	高橋　嘉善	同
長野　　智	同	弥栄　貞三	同	加治政二郎	同
合羽井興之吉	同	宮地　貫道	棉花栽培	大岩　　勇	大岩漁業
大友　　登	同	山本　典次	同	金城泰次郎	同
白井　大助	同	中尾　良一	同	城間　清吉	同
赤樫　繁治	同	森田亀三郎	同	長嶺　直三	同
鷲見　　正	同	伊藤俊太郎	カラセ農園	屋比久孟吉	同
？　　徳炎	同	若菜　春時	同	山城　諫雄	同
天羽兵太郎	同	上田　勝造	上田農園	名嘉　清松	同
山本　益雄	同	川辻　欽一	同	池原　盛益	同
藤崎　末雄	同	方倉　喜一	同	新垣　清栄	同
新川　次郎	大岩漁業	糸数竹三郎	大岩漁業	大城　嘉真	同
新垣　五郎	同	伊是名　松	同	祖慶　長盛	同

金子	好松	理髪店	弥栄	貞次	同	田畑	並順	同
玉城	林一	同	与那嶺	徳	同	兼城	福松	同
冨里	干徳	同	与那城樽福		同	玉城	親信	同
上間	豊吉	同	与那嶺	亨	同	高良	三郎	同
照屋	善利	同	上原	亀造	同	金城清次郎		同
伊芸	安章	大岩漁業	上原	亀助	大岩漁業	玉城	安盛	大岩漁業
上原	武雄	同	仲宗根松吉		同	出盛	康儀	同
古波蔵義一		同	新垣	清吉	同	新川	清繁	同
吉田	光盛	同	田畑	盛順	同	玉城	幸新	同
仲村渠将廣		同	仲田清次郎		同	梅原	武助	同
南風原建康		同	比嘉	樽	同	宮里	亀蔵	同
宮平	秀松	同	小嶺	貞雄	同	上原	亀	同
上原	徳吉	同	大城	博忠	同	玉城	亀蔵	同
玉城	善吉	同	玉城	良雄	同	玉城誠七郎		同
玉城	正次	同	上原	幸三	同	上原	満雄	同
青山	辰巳	同	中村	久吉	同	山本	正輝	同
渡名喜	武	同	比嘉	良金	同	玉城	喜八	ピジャク漁業
我喜屋武秀		ピジャク漁業	玉城	光夫	ピジャク漁業	上地	重順	同
古波蔵清吉		同	池田	増蔵	同	譜久村清盛		同
池田	亀吉	同	宮城	幸正	同	名嘉	良明	同
玉城	利勝	同	伊禮	良貞	同	伊禮	隆得	同
崎山	喜正	同	玉城	亀範	同	高良	三郎	同
中里	孝吉	同	比嘉	加真	同	名嘉	牛仙	同
池	春利	日蘭漁業	池田	忠好	日蘭漁業	嶺	彦太郎	日蘭漁業
悦	重義	同	悦	作次郎	同	０久	武則	同
儀間	増盛	同	中川	常吉	同	古波蔵市栄		同
伊佐川福盛		同	西江	英保	同	島袋	松盛	同
宮城	喜保	同	山内平次郎		同	比嘉	正雄	同
親里	次郎	同	仲川	正雄	同	末吉	蒲一	同
西江	孝栄	同	西江	栄吉	同	金城	吉正	同
西銘	仁盛	同	郁	池信	同	郁	信義	同
悦	重義	同	池	前国	同	嶺	善吉	同
池	長英	同	池	栄良	同	池	春里	同
溜	義則	同	仲	永信	同	池	正吉	同

嶺	住英	同	満	彦熊	同	満	為典	同
山田	稔	巴商会	野村	忠一	大工	秋山	理	歯科医
大谷	茂	同	正田	朝寿	金子商店	堺田	春	同
西浜	岩一	同	金子	繁男	同	竹中太郎吉		歯科医
畑田	利男	同	小熊	利重	同	本田	博	同
小口	久	同	加藤	清	同	小林	常八	小林農園
加来亥太郎		同	宮井源太郎		巴商会	大山	孝	雑貨商
中尾	友信	雑貨商	有光	武熊	セレベス農園	宮井源太郎		巴商会
今吉	国治	同	金子	誠一	同	野田	正雄	南貿農園
山田	正雄	同	００００００		同	岩木		
高田喜八郎		同	大滝		セレベス興業	宇野		
池崎	敏一	同	森	孫太郎	ムゴンドウ農園	栗本		水車業
有光亥三郎		同	森	貫次郎	同	栗本	唯助	農園
河合	堅治	コーヒー園	石橋理二郎		同	菅復	寛一	ハロ
長谷部鉄蔵		同	桶泉	荘平	二葉商会	坂口	ソヤ	不詳

職業別分類表　：　（省略）

本会（メナド日本人会）の事業としては現在、小学校を経営している。校舎は邦人・宮地貫道氏の借地一町歩中に建築し、昭和１１年、外務省より建築費として２，５００円、教育費として６００円の補助を受けた。日本人小学校の概略は左のとおりである。

校長	宮地　貫道	上海日日新聞社長兼棉作業
主任	上野　訓導	一灯園托鉢生　無給
助手	山田　やす子	女子大出
児童	１９名。内６名は学校に寄宿	
諸経費	日本人会および外務省より合計月５０ギルダー	

児童の大部分（１５名）はミナハサ人を母とする関係上、ほとんど日本語を理解せず、教育上すこぶる困難であるため、３カ年を経過すれば一部の優良児を内地に送り、将来の植民地教育担任者として育てようとする計画がある。邦人教育については、財政的にすこぶる貧弱である日本人会にまかせるのは考慮すべき問題で、将来、地理的その他の点において最も密接な関係にある南洋庁において、教員の派遣またはある種の援助などを要すべきものと思われる。

（2）　セレベス産業協会

メナドを中心としたセレベス島北部およびハルマヘラ島方面には年来、日本人多数在留し、農業、漁業、商業等に従事しているが、現在においては漁業以外の業種は経営困難で、特に農園経営では放棄した例もある。しかし蘭印セレベス方面は我が南方経営上きわめて重要であることは言うまでもなく、在留同胞も深くこの点を憂慮して、このたび自発更生を図るべくその第一歩として当会を設立したものである。

同協会の目的は左記定款規定のとおりで、会員数も左記のとおりである。

紫田鉄四郎　　セレベス興業専務
柳井　　稔　　二葉商会代表
江川　俊治　　ハルマヘラ江川農園主
上野　　泰　　セレベス興業重役
大岩　　勇　　大岩漁業合名会社代表
稲垣　辰夫　　南洋貿易メナド支店長
宮井源太郎　　アロン農園主
ピジャク漁業組合

定款　　（省略）

本協会の設立当時は在留邦人の金融機関として嘱目されたが、元来資本金に乏しく、しかも在留邦人の資金難は予想以上に深刻で、数年後には破産を免れないようなのもある。従って、同協会の貸付金は回収の見込みは少ないと云う。

（3）　メナド商業会議所

情報収集機関として設立された。蘭印政府に公認された役員は左のとおりである。

会頭　　南洋貿易　(稲垣辰夫)
副会頭　　二葉商会　（柳井　稔）
理事　　大岩漁業、巴商会、金子商店、南太平洋貿易株式会社

B　邦人拓殖事業の概況

（a）農林業

ミナハサ州における永借地（農林業用地などとして蘭印当局が貸した土地）は８７か所で、合計面積は 19,097 バウ（約１万９千ヘクタール）である。その中、邦人農園の総面積は 3,783 バウであって、ミナハサ州永借地全体の約１９％を占める。現在の農園はいずれも往年のコプラ好況時代に開発されたもので、ヤシの栽培を目的としている。

以下、ミナハサ州における邦人経営の農園（昭和１１年度調べ）は左のとおりである。

（１）　南洋貿易株式会社ボンコール椰子園

所在地　　：　アムラン町の対岸ボンコール

租借年限　　：　７５カ年

租借面積　　：　１，２００バウ（＝約１２００ヘクタール）、内９００バウはヤシ園完成、未整地３００バウ。

年産量　　：　　約３００トン

年産額　　：　昭和１１年度時点では３０，０００ギルダーであったが、現在は市場の暴落により３分の１の１０，０００ギルダーに減少。

植樹本数　：　５０，０００本

種　類　　：　在来種

地　質　　：　地質は複雑。マングローブ地帯接続地はおおむね肥沃であるが、山地は粘土質で悪地である。

労働者　　：　約１３０名

日給平均　　：　２５セント　＋　米一合（妻帯者は半斤プラス、また、子供一人につき四分の一増）

備考　　；　　園内の地形は複雑（最高地は標高２００メートル）でヤシ果の運搬に不便であるた園内各所に乾燥小屋を１１か所設備。ヤシ樹間は６間（約１１メートル）

（２）　セレベス興業株式会社マンキットパザン椰子園

所在地　　ミナハサ州南部のマンキットおよびパザン

租借年限　　７５カ年

租借面積　　１，４５３バウ

年産量　　１０，０００

年産額　　２０，０００ギルダー

種類　　在来種

地質　　海岸に沿って急傾斜をなし、地味は比較的肥沃である

労働者　　１５０人

日給平均　　２５セント（労働時間は朝５時半より午後３時、間に休憩 30 分

（３）　カラセ農園

所在地　　カラセ村（メナド西方約 10 キロ）

租借年限　　75 カ年

租借面積　　８３７バウ。作付け面積はヤシ園 100 バウ、ゴム園 105 バウ、他は未開墾

年産量　　コプラ２００～２４０　　、ゴム（全部切りつけの場合）36,000 キログラム

植樹数　　ヤシ　10,000 本、ゴム樹 12,000 本

地質　　土地肥沃にして各般の状態は邦人経営農園のなかでも最良と言われている

労働者　　常勤 40 名（コプラ 10 名、除草・溝堀・農園整備 30 名）

日給平均　　20 セント　＋　米

（４）　ケロレンダー小林農園

所在地　　ノーガン村ケロレンダー（ランゴワン西方）

経営者　　小林常八

租借年限　　75 カ年

租借面積　　399 バウ（作付け割合　タマネギ３０町歩、草棉６町歩試作）

地質　　ソプタン山麓に位置して、地形は南東に傾斜。小起伏がすこぶる多く、やせ地。

日給平均　　男２０セント。

（５）　上田農園

所在地　　トモホン

租借年限　　原住民所有地を５カ年の賃貸契約で借り受け

租借面積　　１５バウ（10 町５反歩＝１５ヘクタール）

年産額　　7,200 ギルダー

種類　　白菜、甘藷、山東白菜、大根、ナス、キウリ

地質　　標高約 700 メートル、気温 25 度

労働者　　30 人

備考　　個人経営農園で大量の生産をあげている。蔬菜生産のほかに肥料販売を行っている。自家用の２トントラックを所有して、作物を市場に運搬している。

（ｂ）　商業（商社）

主な業者は、南洋貿易株式会社および二葉商会の２社。概況は左のとおりである

（イ）　南洋貿易株式会社メナド支店

設立　　大正４年（1915）

支店長　　稲垣　辰夫　（岐阜県出身）

資本金　　500 万円

主要事業　　１．綿織物・雑貨などを輸入し、鰹節・コプラ・ヤシ炭を輸出

　　２．ヤシ園経営（「邦人拓殖事業の概況）を参照」

　　３．日本郵船・南洋海運代理店

備考　　邦人店員３名。マカッサルに出張所。コプラ市況暴落のためやや不振。

（ロ）　二葉商会

設立　　昭和８年（19３３）

支配人　　柳井　稔（兵庫県出身）

事業　　雑貨を輸入、コプラを輸出

備考　　邦人店員３名。サンギル島に支店あり。

（ｃ）海運業

セレベス興業合資会社が５万ギルダー出資し、紫田鉄四郎、マレー人ビンセキの２名が設立した沿岸航路の株式会社があり、コプラの買い付け・運搬をおこなっている。

営業成績は良好であるが、近年、K.P.M（オランダ資本の王立汽船株式会社）の航路独占意欲が強く、（当社の）新規就航（認可取得）は難しくなっている。

現在の就航船はノビル丸（１２０トン）、豊年（１００トン）の２隻、他に３隻が係船中。

「ノビル」「豊年」は、北セレベス、サンゲル、テルナテの沿岸航路に就航、ミナハサ、ピンダン、マンキットの３隻は許可されず、メナド港沖合に係船中である。

（d）水産業

ビトゥンに大岩漁業、日蘭漁業会社、ピジャック漁業組合の三つあり、その概況は次のとおりである。

（イ）漁業の種類	かつお漁業	
（ロ）漁船数	大岩漁業	４隻
	日蘭漁業	１隻
	ピジャック	３隻
（ハ）従業員数	邦人	現地住民
大岩漁業	７０人	２２３人
日蘭漁業	２８	５８
ピジャック	３０	６２

（二）同地漁業の特典

前記８隻の漁船は従来、オランダ国旗のもとに操業していたが、昨年８月末より日本国旗を掲揚することに定められ、同時に　（１）不開港地であるビトゥンを特別に（日本漁船の）根拠地として使用することを許可、（２）漁獲物の輸入税は免除されること、（３）領海内において（外国漁船が）餌魚を捕獲することは禁じられているが現地住民から購入することは許可されること、（４）蘭印政府から何らかの指令があるまで当分の間、ケマ、タリセイ島の一部沿岸漁業が許可されること、の特典を受けた。

（ホ）　地方官憲との関係

ビトゥン在留邦人漁業者と地方官憲側との間柄はおおむね良好である。但し、沖縄、南洋群島からの漁船に対しては、メナド、サンギル群島、ビトゥンその他において、これまでに時々トラブルを起こすことがあったために、右の外来漁船に対する当地官憲の態度は、事故があったときにこれを政治的に曲解することが多く、相当悪化している状態である。

（以上、報告書を転写.（　）内は編集部注記　）

編集部付記

前号に引き続き、南洋庁長官官房によるミナハサ地方調査報告を紹介した。
「タルシウス」前号では「第９章　産業」の前半部までの紹介で終わった。第９章の後半部は統計の細かい数字がたっぷり並んでいて、見るだけでめまいを起こしそうなのでそこはパスして、今号では第１０章「在留邦人および邦人拓殖事業の現況」を紹介した。ここでは当時のミナハサ地方における在留日本人とその活動状況が報告されており、この報告書の核心部分ともいえる。
在留者名簿で見てとれるように、規模的に見て在留邦人経済活動の主体は漁業（かつお漁業）であった。しかし、漁業だけでなく、農林業とそれに付随する商社の活動も盛んであった。オランダ統治時代、蘭印中央政庁はバタビア（現ジャカルタ）にあり、バタビア中央から見ればセレベス島は遠いへき地である。オランダ当局としては、外国人（日本人）でも入植し未開地を拓いてくれたらありがたい、ということであったのかもしれない。主にココヤシやコーヒー栽培を目的とした大農園が日本企業の名でミナハサ州のそこかしこに拓かれた。　ミナハサ地方に入植したのは日本人だけではなく、ミナハサ半島東北突端（リクパンの東）のマリンゾウ村付近、メナド市西方のタナワンコにもオランダ系あるいはドイツ人経営の大農園があった。報告書にもあるように、この時点での日本人経営農園は、合計で３，７８３ヘクタール、永借地全体の１９％であった。大規模農園の経営は生産物を扱う商社活動とセットになっており、産品は日本輸出向けのコプラやゴム、コーヒーであった。ゴムは日本の戦略物資ともいわれて重要物産であったが、生産地としてはミナハサ地方よりジャワ島、スマトラ島などの比重が大きかった。
日本の戦略物資といえば、「綿」の重要性に着目し、棉作の普及に努力した人物がいた。日本人小学校の校長として報告書にも載っている宮地貫道氏である。宮地はもともとマスコミ人（上海新聞社長）で、大陸が主な活動舞台であったが、かねてから棉作の重要性を説いて、自身も棉作の研究に余念がなかった。実は、宮地は札幌農学校出身の農学士で、以前から棉作に並々ならぬ関心を持っていた。その彼が棉作の適地として南洋・セレベス島に目をつけたのは時代の必然であったかも知れない。ミナハサ現地でのパートナーは二葉商会（南洋拓殖）の柳井稔であった。後に、二葉商会（南洋拓殖）はゴロンタロに綿花工場を建て、日本向け輸出の拠点を築きあげたが、米軍の空襲により文字通り「灰燼に」帰した。

宮地と柳井は棉作の開発と同時並行で日本人学校の設立にも尽力した。メナド国際空港方面からメナド市街地に向かうとき、ショッピングセンター（GIANT）の前あたりで道路が二股にわかれる。左手に向かえば橋をわたって海軍の司令部前に出る。右手に向かえば川沿いにシンキル方面にむかう。この右手の道をシンキル方面向け３キロほど進むとワオノサ地区で、道路の

左側沿いに小学校がある。この小学校の敷地に、宮地貫道の住居と日本人学校があった。大岩富さんによると、この敷地は当時の二葉商会職員・クリット氏の所有地であったらしい。約１ヘクタールの土地に宮地家と日本人学校があった。（現在の小学校はもちろん立て替えられたもの）
メナド・トモホンの近郊には蔬菜生産を目的とする個人経営の農園もあった。メナド市など人口の多い都市部を相手に、それなりの業績をあげていたようである（上田農園、小林農園など）。このようにミナハサ地方一帯には漁業・農業を基幹として、写真屋さん、歯医者、行商人、大工、商店など小規模個人事業者も入り込んでいた。

（時代背景）

この報告書が出たのは昭和１４年（１９３９）である。いうまでもなく「昭和」という時代の前半は世界の歴史が激しくうごいた。「動乱の時代」ともいう。動乱の大波のピークを昭１５年（1940）から戦争終結の昭和２０年(1945)までとすると、昭和１４年というのは大波がすでに立ち上がり、波高が高まりつつある時期にあたる。支那事変勃発からすでに２年経過、西洋の政治状況もキナ臭くなっていた。周囲（アメリカ、イギリス、オランダなどアジア一帯の植民地宗主国）の、日本を見る目も厳しくなってきた時期である。
この調査を担当したのは（パラオに本庁のある）南洋庁長官官房であった。当時の日本人・日本政府が蘭印セレベス島をどのような目線で見ていたか、その視点で読むと非常に興味深い報告書である。今だから言えることではあるが、このような時期に日本国は官民あげて南進熱に罹っていた。「このような時期に」と書いたが、「このような時期だから」と言い換えてもよいか。南進熱の熱源は「時代」であったといえるかもしれない。

（大岩勇と南洋興発）

報告書の「在留邦人名簿（昭和１３年１１月調べ）」によると、漁業関係者は三つのグループ（大岩漁業、日蘭漁業、ピジャック組合）になってる。この報告書では触れていないが、日蘭漁業、ピジャック組合は当時すでに経営不振となっており、大岩勇率いる大岩漁業だけが業績を伸ばしていた。ピジャック組合と日蘭漁業はこのあと船・乗組員とも大岩漁業に吸収された。ほぼ同時期に、パラオに本拠を置く「南洋興発」が大岩漁業を吸収合併、社名も「東印度水産」と変わった。そして、昭和１７年の日本海軍のセレベス島進出に伴って東印度水産は海軍の食糧調達を担う御用会社となり、日本軍を支えることになった。
南洋興発は、昭和戦前期に旧南洋群島で製糖事業を軸にして発展した会社である。民間企業ながら日本の南進国策の先頭に立っていた。国策の実行機関といってもよい。当初、事業の範囲は内南洋（委任統治下の南洋群島）に限られていたが、ある時期から外南洋（ニューギニア、セレベス、ボルネオなど）にも目を向けるようになった。その視線の先にセレベス島ミナハサ

半島（の大岩漁業）があった、ということであろう

報告書にその名がよく出る南洋貿易（南貿）は大正時代からミナハサ地方に進出、メナドに支店をおいて農園経営とコプラの輸出を軸に活動していた。メナドの日系業界では古参の商事会社である。その南貿の本社（東京）が開戦まもなくして、南進企業の本家本元である南洋興発と合併し、南貿メナド支店は南洋興発のメナド支店となった（メナドでの社名は変わらず、「南洋貿易メナド支店」）。ほぼ同時に、ビトゥンの大岩漁業も南洋興発の子会社「東印度水産」となった。南洋興発系の会社としてメナドには「南太平洋貿易」もあった（進出時期不詳）。この南洋興発系３社が、組織上どのような関係になっていたのか。東印度水産の立ち位置はどのようになっていたのか、資料不足でまだわかりません。

太平洋戦争開戦時、大岩勇はたまたま日本出張中であった。開戦の気配を察していたのか何隻かのかつお漁船はかつお節工場の日本人工員を伴ってパラオに退避した。それでも、工場の保守要員として何人かはビトゥンに残っていた。開戦と同時にビトゥン残留組はオランダ当局に逮捕され、ジャワ島南岸のチラチャップ経由でオーストラリアに護送・抑留されることになる。開戦１か月後の日本海軍によるメナド攻略を受け、総帥の大岩勇はパラオ経由でビトゥンに復帰、カツオ船団も戻った。東印度水産は会社まるごと海軍への食糧補給担当として徴用され、代表者の大岩勇の身分は大佐待遇の海軍嘱託となった。また、カツオ漁船乗組員の中から、インドネシア語の能力を買われて海軍警備隊付きの通訳に採用される者もいた。このように、元大岩漁業・東印度水産は会社丸ごと戦争遂行の歯車として組み込まれ、敗戦で尊い犠牲者もだして消滅した。

（柳井稔と南洋拓殖）

この報告書で、ヤシ園経営を主体とする農林業はコプラ市況の暴落によって経営が厳しくなっていると報告されている。兵庫県出身・柳井稔（みのる）の二葉商会は業務の柱をコプラの輸出におく商社であった。この報告書では触れていないが、昭和１４年当時に二葉商会は国策会社「南洋拓殖」の傘下に入るべく交渉が進み、パラオにある南洋拓殖本社から担当者が出張してきて、吸収合併の具体的な作業が始まっていた。

南洋拓殖会社（以下、「南拓」）は昭和１１年（１９３６）に設立された、社名どおりの南洋開拓を目的にした国策会社である。所轄官庁は拓務省、筆頭株主は南洋庁、設立準備委員に海軍大将が２名も名を連ねている。初めから海軍色の強い国策会社であった。本社はパラオ群島・コロール島に置き、丸の内に東京事務所があった。

この南拓がセレベス島進出の足掛かりとしてメナドの二葉商会に目をつけた。昭和１４年時点ですでに二葉商会吸収の作業に入っていたことは前述のとおりである。合併作業は順調にすすみ、計画通り二葉商会は南拓に吸収された。戦後に編纂された元南拓社員の手記集によると、元社員たちは柳井のことを「支店長」と呼んでいる。併合された二葉商会は南拓のメナド支店

という位置づけになったようである。従前からの二葉商会社員に加え、本社から農林・鉱業などの専門的な技術を持ち、あるいは訓練を受けた社員が送り込まれ、メナド支店の陣容は強化された。　昭和１６年１２月の開戦時、メナド勤務中の社員はオランダ当局に捕縛され、日本人社員はオーストラリアでの抑留生活を体験することになる。
開戦時に柳井支店長はたまたま内地出張中で難をのがれた。そして海軍のメナド攻略後（昭和１７年１月）ただちにパラオ、ダバオ経由でメナドに戻った。メナドに戻る旅程は、パラオ～ダバオが海軍の飛行艇、ダバオ～メナドは駆潜艇と、すべて海軍のお膳立てであった。　メナドに戻った柳井はただちに軍属として徴用され、メナド警備司令部付きとして「活躍」することになる。敗戦で二葉商会は消滅、柳井は戦犯としてオランダ軍により銃殺された。

大岩漁業と二葉商会、昭和１４年ごろミナハサ地方に根を下ろしていた二つの日系企業は同じ運命をたどった。　（敬称略）

参考

小坂清見　「わが青春のメナド」私家版
宮内泰介・藤林　泰　「かつお節と日本人」岩波新書
旧南洋拓殖関係者一同　「南拓誌」南拓会
木村達也　「宮地貫道伝」（暫定版）
長崎節夫　「北スラウェシのＢＣ級戦犯」　タルシウス第３３号
大岩　富　口述

編集後記

タルシウス第３５号、７月初旬発行の予定が遅れに遅れて、ようやく発行となりました。

今号は会員の投稿が少なくなりましたが、日本語パートナーズの皆さんが頑張ってくれて会報らしい体裁が整いました。窪田さんはじめパートナーズメンバーの皆さん、ありがとうございます。時々メナドを思い出して、「タルシウス」にも一筆お寄せください。

去った６月６日（水）トンダノのメナド国立大学で大学生による日本語スピーチ大会が開かれました。箭内さん、中村さんと一緒に私も審査委員として参加。弁論大会の審査と言っても私にはほとんど未知の領域で、スピーカーが話す日本語がわかるという程度ですから、採点も適当に記入しました（ごめんなさい）。しかし、最後に点数の集計をすると、私が記入した点数は他の二人の審査員の点数のほぼ中間で、成績順位も集計された順位と一致しました。それほどでたらめではなかったということでしょう。大会の様子は中村さんから報告があります。

久しぶりに大貫さんから原稿がとどきました。最近はマグロよりほかのことで忙しいようですが、回遊範囲が広くてどこを泳いでいるのか想像もつきません。どこに居るにしても暑さに負けずに、時々はビトゥンに帰ってきてください。

下村さんは永住ビザ取得ノウハウのすべてを公開しました。以前にくらべて入管手続きも楽になりましたが、やはりまだインドネシアです。永住ビザ取得を予定されている方はしっかり勉強してください。

前号に続き、戦前の南洋庁によるミナハサ地方調査報告を紹介しました。メナドはじめ北スラウェシ地方一帯にはまだそこかしこに先輩たちの活動の痕跡が残っています。

先人の活動の延長線上に今の私たちが居るのです。昔、ここに何があったのか知ることが大事です。昔を知ることによって現在を理解することができます。現在を理解することによって未来のインドネシアと日本の関係を考えることもできます。と、何やら学校の先生みたいな話になってしまいました。

また、来年初頭の発行をめざしてがんばりましょう。

（長崎）

会員名簿

会報「タルシウス」電子版では不特定多数の方が閲覧するため、

セキュリティ上の観点より会員名簿は非公開とすることとしました。

（2014 年 04 月 20 日）

上記理由により会員名簿が非公開になりましたことをご了承ください。

●会報タルシウス（製本版）には従来通り名簿は掲載されます。

●各会員に対しましての個別の、または、尋ね人などのお問い合わせは、

直接日本人会へお問い合わせください。

該当会員に連絡後、会員より直接連絡するか該当会員の同意のもとで、

連絡先をお知らせすることといたします。